

施策分析シート（平成24年度）

No1

施策名	総合的な交通体系の整備	施策No	12-03	部課名	防災都市づくり部都市計画課		
関連部課名		課長名	松土	内線	2810		
行政評価	分野	安全安心都市[]					
事業体系	政策	利便性の高い都市基盤の整備[12]					
目的	公共交通機関の充実を図るとともに、高齢者や障がい者等の移動や施設利用の利便性・安全性の向上を推進する。						
指 標	施策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		21年度	22年度	23年度	24年度 (見込み)	目標値 (28年度)	
	コミュニティバスルート の拡大進捗率	20%	20%	40%	60%	100%	基礎調査：10%、詳細調査：20%、 導入ルート決定：40%、 導入：1ルートにつき20%増
	新バリアフリー基本構想 策定の進捗率（再掲）	60%	70%	80%	90%	100%	区全体基本構想策定：60%、 重点整備地区別計画策定：1地区に つき10%増
現 状 と 課 題 （ 指 標 分 析 ）	<p>平成17年8月のつくばエクスプレス開業、平成20年3月の日暮里・舎人ライナー開業などにより、これまでのJR線、京成線、地下鉄、都電荒川線と併せ、区内の鉄道交通の充実が図られた。さらに、平成22年7月には日暮里・成田空港間を36分で結ぶ成田スカイアクセスが開業し、日暮里駅の交通結節点としての役割は飛躍的に高まっている。</p> <p>区内の公共交通網のうち、鉄軌道の多くは南北方向に通っており、東西方向は都電荒川線のみである。また、南千住駅東側の交通手段としては都バスのみであったため、平成20年10月にコミュニティバス「汐入さくら」を導入し、利便性の向上を図った。</p> <p>このように区内の交通体系は整備されつつあるが、鉄道駅や主要施設までのアクセスが未だ不便な地域が存在している状況である。</p>						
今 後 の 方 向 性	<p>《今までの成果及び指標分析を踏まえて》</p> <p>区民の交通利便性を向上させ、かつ、高齢者や障がい者等の交通移動手段を確保するため、交通事業者の自主運行による新たなコミュニティバスルートについて、平成24年2月に設置した「荒川区地域公共交通会議」において継続的に検討し、導入を図る。</p>						

施策の分類		分類についての説明・意見等
24年度設定	25年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	公共交通網の整備を推進するとともに、だれもが安全で安心して暮らせるよう様々なバリアフリー化を図る必要がある。

施策分析シート（平成24年度）

No2

施策を構成する事務事業の分類						
事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための 分類		分類についての説明・意見等
		22年度	23年度	24年度 設定	25年度 設定	
バリアフリー整備促進事業 （再掲）	09-01-06	(7,169)	(7,545)	重点的 に推進	重点的 に推進	高齢者等の移動や施設利用の利便性を 確保するための最優先の事業である。
日暮里駅総合改善事業	09-01-11	4,014	-	継続	継続	日暮里駅整備㈱の適切な運営に関する 調整を行う。
コミュニティバスの利用 促進	09-01-15	-	14,043	推進	重点的 に推進	高齢者・障がい者等の日常生活の足と して欠かせないものである。
つくばエクスプレスの利 用促進	09-01-16	50	50	継続	継続	沿線地区の活性化のために利用促進を 図る必要がある
合 計		4,064	14,093			